



Weekly Market Report

Oct 23, 2023

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

先週は149円台を中心に小幅な値動き。今週もブラックアウト期間で狭いレンジでの推移が

USD/JPY (1週間の値動き)



コメント

(出所) Bloomberg

先週のドル円相場は、149円台を中心に小幅な値動き。日銀の2024年度物価見通し上方修正報道で瞬間148円台に急落する場面こそあったものの反応は一時的で、週初から米金利の上昇を背景にドル円は堅調推移。ただ注目の米小売売上高は市場予想を大幅に上回る結果となった一方で、節目の150円を前に上値重く、149.80水準での越過。前週終値からの上昇幅は約30銭にとどまった。今週はBOC・ECBの開催が予定されている一方、FOMCを翌週に控えたアメリカはブラックアウト期間に突入。先週の強い米経済指標・米10年金利の年初来高値更新を以てしても150円を突破できなかったことを考えると、24日の米PMI、26日の米第3Q GDPが相応に上振れない限り、現水準からの上抜けは難しいか。引き続きキャリートレード需要は根強いものの、中東情勢などリスクオフ要因も控えていることから、今週については直近レンジ内での推移を想定。(市場商品部/CDG)

今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
10/24(火)	(米/欧) 製造業/非製造業PMI	-
10/25(水)	(加) BOC	-
10/26(木)	(英) ECB	-
10/26(木)	(米) 第3Q GDP	4.3%
10/27(金)	(米) ミシガン消費者信頼感	63.0

USD/JPY (5年間)



(出所) Bloomberg

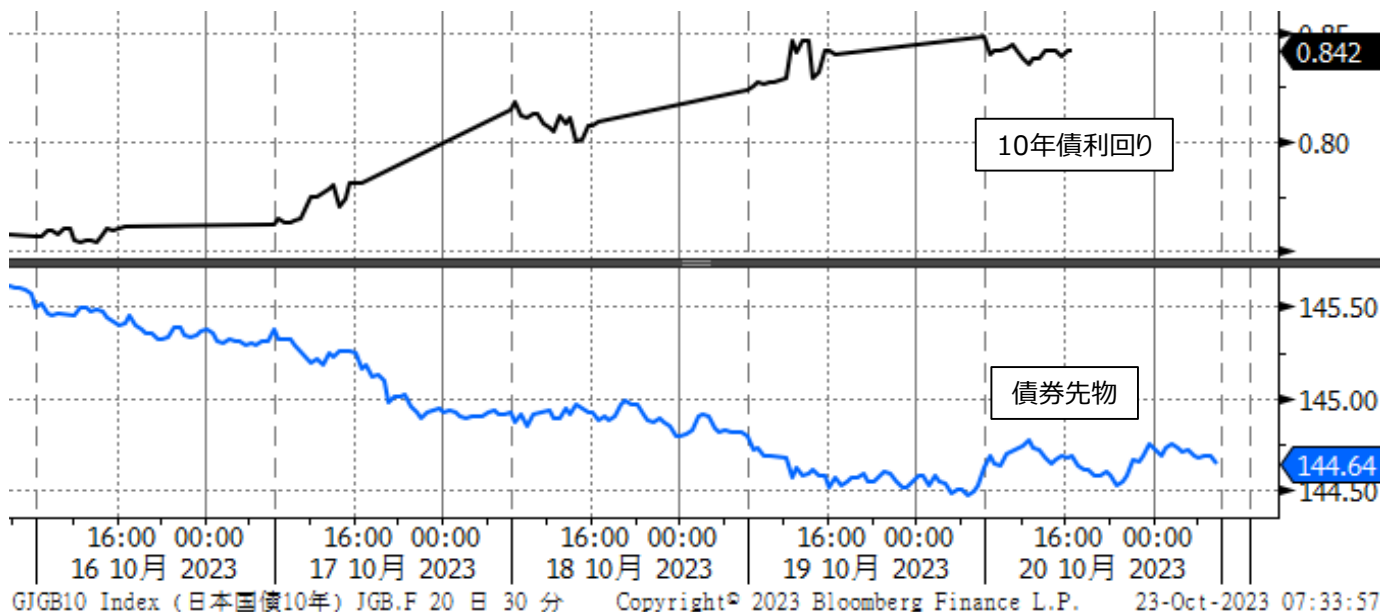
今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
鈴木万里子	148.90 – 151.00	政策金利据え置きを織り込んでいる中、米経済指標が予想対比上振れとなれば利上げ観測再燃、150円突破なるか。
松榮俊樹	148.50 – 150.00	為替介入の警戒により150円近辺まで相場は迫るも上値は重い様子。ブラックアウト期間につき値動きは限定的か。

2. 円金利相場概況

利上げ停止観測により為替相場の上値は重い一方、国債金利は10年ぶり高値まで上昇

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



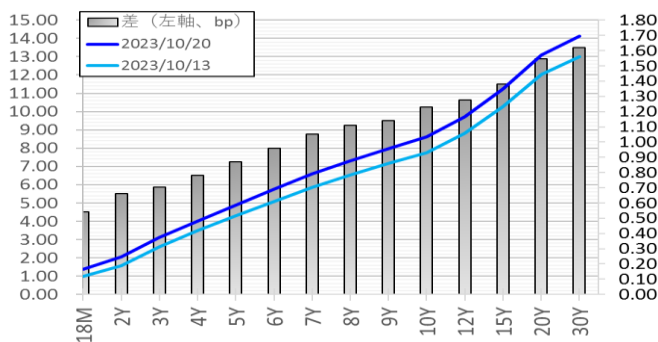
コメント

(出所) Bloomberg

先週の10年国債金利は、好調な米経済指標による米金利上昇につられ上昇傾向。20日（金）には0.845%と2013年以来、約10年ぶりの高水準まで上昇。週初は中東情勢のリスクオフ後退から米金利が上昇。これに伴い10年国債金利もじり高。17日（火）に発表された米小売売上高が予想上振れの結果となり0.800台まで上昇。18日（水）は中東情勢緊迫懸念から再びリスクオフに、原油価格上昇によるインフレ懸念から米金利は長短共に上昇。19日（木）はパウエル議長の発言を控え小幅な動きに。20日（金）のブラックアウト期間前最後のパウエル議長の発言は利上げ停止観測が強まった内容になったものの米金利は上昇基調。10年国債金利は0.835%で引け。今週はFOMC前で方向感のない展開か。中東情勢や日銀のヘッドラインには注意。（市場営業部/鈴木）

金利スワップ変化（1週間）

(%)



10年円金利スワップ推移（5年間）

(%)



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

(出所) Bloomberg

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
飯野りさ子	0.83% - 0.89%	30、31日の日銀政策決定会合を控え、金利に上昇圧力がかかりやすい展開。23日の岸田首相の所信表明演説にも注目。
亀田則子	0.83% - 0.88%	23日の岸田首相による所信表明に注目。債券市場では日銀決定会合を控え金利に上昇圧力がかかり身構える展開と予想。

3. 今週のトピックス

カナダドル相場動向のアップデート

カナダの金融政策動向と、当面のカナダドル相場見通し

カナダ中銀は10月の会合にて、利上げ再開の可能性が高く、当面のカナダドル相場は強含みの地合いが続くと予想。

カナダ中銀（以下BOC）は9月の理事会にて利上げの停止を発表したものの、足元インフレ圧力は強まっていることから10月の理事会にて利上げ再開の思惑が浮上。本項では、BOCによる今後の金融政策方針、消費者物価指数（以下CPI）を踏まえた上で、当面のカナダドル相場を予想する。

BOC金融政策

【図1】は2022年10月以降のカナダ2年国債金利、10年国債金利の推移を示している。BOCは9月6日の理事会にて、政策金利を5.0%に据え置くことを発表した。BOCはカナダ経済について、「物価上昇を和らげるために必要であり、より弱い（経済）成長の時期に入った。」と説明している。2023年第2四半期の経済成長は、消費の伸びが鈍化したこと、住宅投資が低下したことが主因となり、前期比年率マイナス0.2%に転じたことで、政策金利据え置きが決定された。

しかし、後述のCPIの結果を受け、10月利上げの思惑が再燃したことで、カナダ国債相場は大幅下落、2年債利回りは一時4.973%まで上昇し、2001年以来の高水準を付けた。BOJは今後もインフレ圧力が続いた場合には追加利上げの可能性もあると表明しており、カナダ国債相場は引き続き上昇基調が継続すると予想。

インフレ動向

【図2】は2022年9月以降のWTI原油先物と消費者物価指数の推移を示している。8月のCPIは前年同月比で4.0%上昇、9月は3.8%上昇と引き続きインフレ圧力は強い。CPI上昇の主要因は原油価格の上昇であり、8月、9月原油価格は主要産油国における生産量削減を背景に上昇し、今年の最高値となる93.68ドルまで上昇した。加えて、足元では中東にて地政学リスクによる原油供給混乱が懸念されており、原油価格圧力は更に強まっている。

当面のCPIは原油価格の上昇もあり、引き続き高水準を維持されると予想。上述の通り、原油は引き続き供給不足の状態であることから、上昇圧力が上がりやすいことに加え、中東情勢が一段と緊迫化して産油国に影響が及べば、原油の供給量は更に減少し、原油価格及びCPIは上昇すると考えられる。

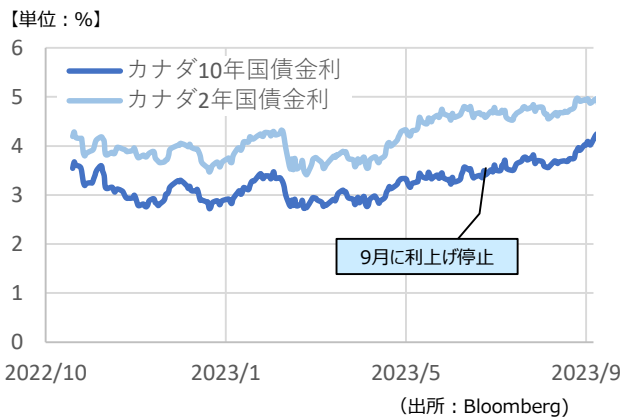
今後のカナダドル相場展開

【図3】は2022年10月以降のカナダドルの対円、対米ドル相場の推移を示している。当面のカナダドル相場は上値を迫る展開を予想。原油価格の上昇によるインフレ圧力の継続が、BOCによる追加利上げ期待を高めており、カナダ国債金利の上昇の引き上げ要因となりカナダドルは当面の間強含みの地合いが続く見通し。

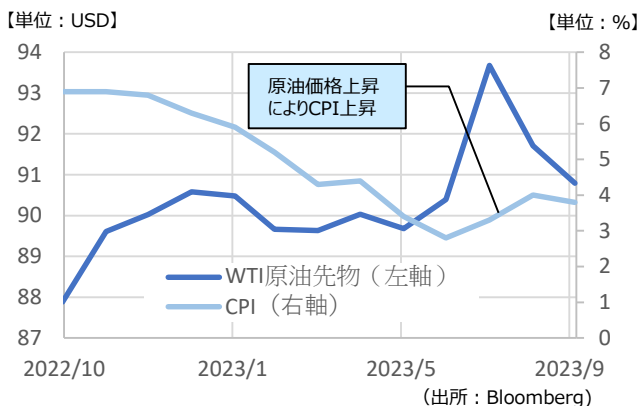
対円では、日銀による政策修正への思惑が残されているものの、BOCによる利上げ期待の高まりから金利差は拡大し、カナダドル高基調は継続すると考えられる。

（市場営業部/下出）

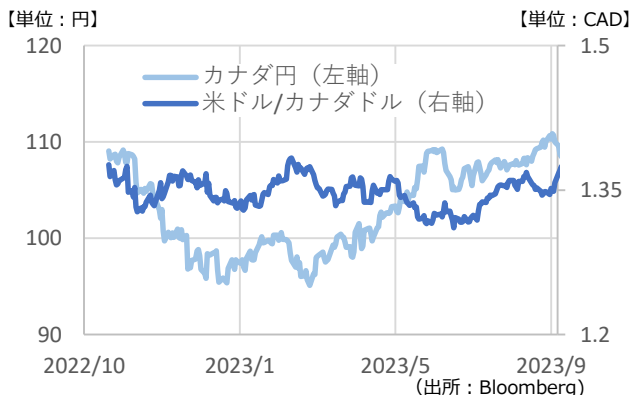
【図1】カナダ国債金利（2年国債、10年国債）の推移



【図2】消費者物価指数（CPI）とWTI原油先物の推移



【図3】カナダドル相場（対円、対米ドル）



ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会